

共愛学園前橋国際大学

平成 29 年度
大学改革推進事業
(大学教育再生加速プログラム)
実績報告書

(暫定版)

平成 30 年 3 月

共愛学園前橋国際大学の「大学教育再生加速プログラム」

(AP)

共愛学園前橋国際大学は「学生中心主義」と「地域との共生」を行動指針に掲げ、既にアクティブ・ラーニング（AL）を用いた授業に全専任教員が主体的に取り組んできました。また、教育環境においては、大学全域に無線 LAN を完備し、全学生に小型携帯端末を持たせるユビキタスキャンパスを構築したり、全国に先駆けて AL 専用に設計された学舎 KYOAI COMMONS を建設したりするなど、学生主体の学修に注力してきました。AP ではこの先進的な教育をさらに充実・発展させて学修質保証システムを構築し、自律的学修者の育成とエビデンスに基づく検証・改善を行います。

以下、AP の事業計画および平成 27 年度に実施した取組について報告します。

<目次>

I. AP 事業計画

II. 学修質保証システム基盤整備

- ・ライティングピアチューター制度の運用と学修支援相談に関連する
図書館員等の研修・フォローアップの実施
- ・高大接続改革推進事業の趣旨や本事業に係る内容の印刷物等の作成・配布、
その他の広報活動

III. 学修質保証システムの構築

III-1 学修の達成目標の明示

- ・学生の学修状況把握のための外部評価の実施
- ・学修成果指標の妥当性、適切性の検討に向けた調査・研究の推進

III-2 アクティブ・ラーニングの質保証

- ・アクティブ・ラーニング質保証に関する指標等の開発
- ・スキルアップ FD（アクティブ・ラーニング、高大接続等）研修会の開催

III-3 学修成果の可視化による主体的学修の支援の充実

- ・学修行動調査の実施
- ・KCG（ポートフォリオ）を活用した学修成果の蓄積とリフレクション
および管理スタッフの配置

III-4 学修成果達成度による教育改善

- ・他大学への視察、各種セミナーへの参加
- ・自己点検の実施 評価委員会実施

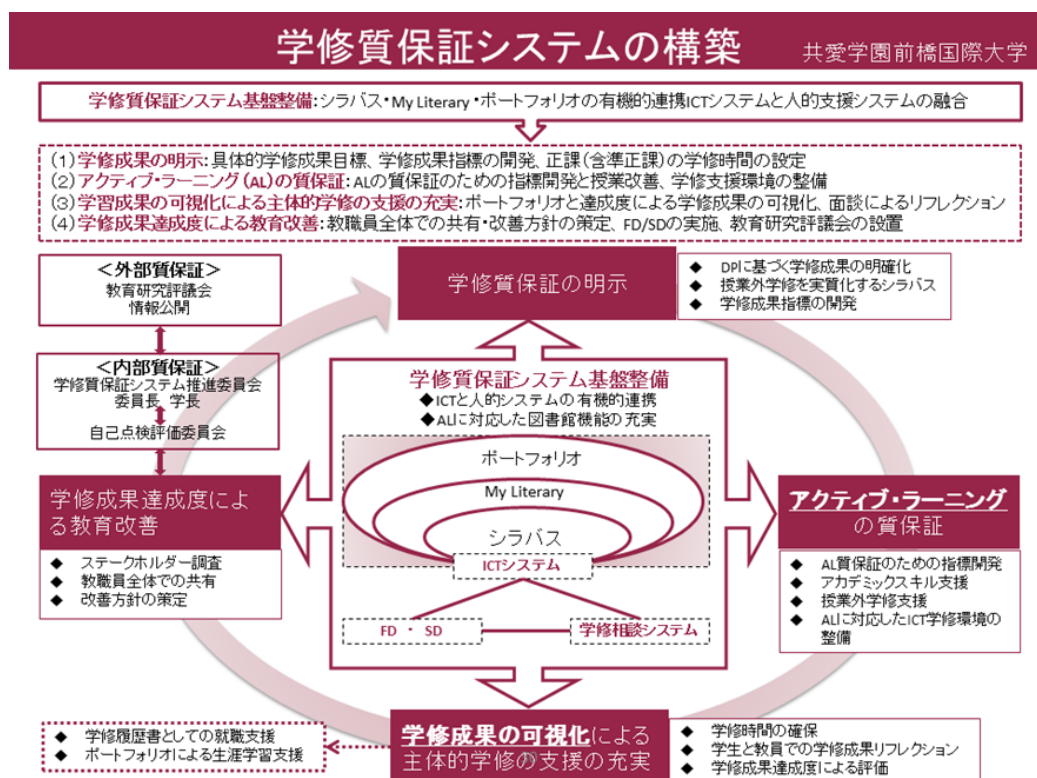
I. AP 取組みの事業計画

平成 26 年度「大学教育再生加速プログラム」に採択された本学の取組は、AL の質保証と学修成果の可視化に取り組むことで、学生が自ら学び得た知を体系化し構築することを支援するとともに、教育の質保証の向上をめざすものである。

よって、本事業では、「学修質保証システムの基盤整備」を中心に据え、①学修成果の明示、②AL の質保証、③学修成果の可視化による主体的学修支援の充実、④学修成果達成度による教育改善を連続して展開し、「学修の質保証システム」を構築する。

これにより、今後ますます増加が予測される海外の大学や地域社会をキャンパスとする学びに対する質保証が可能となる。同時に、学修成果の可視化によって学修の質保証が進み、自律的学修者の実質的な育成が期待される。具体的には、学修質保証システムの一部を構成するシラバスを中心とした ICT システムの構築は、学生自身が獲得すべき知識を体系化する力を高めるとともに、エビデンスに基づいて自己の学修成果を評価できる能力を強化することが期待できる。学修質保証システムのもう一つを担う学修相談システムの構築は、教職協働で学生のニーズに合わせた学修支援を提供することで、学生を中心とした学修環境の充実が期待できる。また、AL の質の向上は、何を学んだのかの振り返り、自ら知を体系化することを可能とする批判的思考力を身につけるために不可欠であり、21 世紀を生き抜く力の獲得が期待できる。これらの取り組みの結果として、授業外学修時間の確保に役立つことが期待できる。

平成 29 年度の補助事業実施計画



1	04～03月	<p>・AP推進委員会・APWGの運営</p> <p>AP推進委員会は全学的推進機構であることから、学長のリーダーシップにより学内各部署を連携させ、全学的に改革を推進するためのガバナンスを強化する。</p>
2	04～03月	<p>・ICTシステムの運用</p> <p>シラバス、ポートフォリオ、図書館情報システムをそれぞれ稼働させる。これらを連動させたKCGの運用を、全学生を対象に本格的に開始する。</p>
3	04～03月	<p>・高大接続改革推進事業の趣旨や本事業に係る内容の印刷物等の作成・配布、その他の広報活動</p> <p>高大接続や本事業の趣旨や取り組み内容を学生に向けて広報する。学外に向けては主に本事業のホームページから広報を進め地域・社会へ発信する。</p>
4	04～03月	<p>・ライティングピアチューター制度の運用と、学修相談支援に関する図書館員等の研修・フォローアップの実施</p> <p>学生が学生に対し、レポート作成スキル等学修に関わるサポートを行うラピタデスクを運用するとともに、図書館員等で学生の授業外学修を支援する学修相談支援を継続実施する。またこれらの事業に関わる図書館員・ピアチューター等のスキルアップ研修とフォローアップ研修を実施する。</p>
5	07月	<p>・学生の学修状況の把握のための外部評価の実施</p> <p>汎用性能力等の状況を把握するために外部評価を実施し、学修成果指標策定などの基礎資料とする。</p>
6	04～03月	<p>・学修成果指標の妥当性、適切性の検求に向けた調査・研究の推進</p> <p>H27年度に暫定的に策定した学修成果指標の運用を実施し、昨年度の学修行動に対する調査、授業アンケートの分析、外部評価の結果・分析をもとに妥当性と適切性を検求する。</p>
7	04～03月	<p>・アクティブ・ラーニング質保証に関する指標の開発</p> <p>アクティブ・ラーニングの基礎研究を進め、アクティブ・ラーニングの質保証のための指標等の開発へ繋げる。</p>
8.	08～03月	<p>・スキルアップFD研修会の実施</p> <p>FD/SDを実施し、高大接続を踏まえたアクティブ・ラーニングの質保証に対する見識を高めるとともに、本取り組みの共通理解を図る。</p>
9	04月	<p>・学修行動調査の実施</p> <p>学生の学修行動等の現状把握、課題の洗い出し等を目的とする学修行動調査を実施する。</p>
10	04～03月	<p>・KCG（ポートフォリオ）を活用した学修成果の蓄積とリフレクション および管理スタッフの配置</p> <p>学生には学修成果の蓄積と、学修に対する総括および次年度の学修目標の設定を求める。教員は担当学生のリフレクションコメントを含む学修状況を確認する。</p>
11	04～03月	<p>・他大学への視察、各種セミナーへの参加</p> <p>先進的な取り組みなど本学の事業に示唆が期待される先進の他大学への視察研修、および本事業に関連する各種セミナー等への参加を実施する。</p>
12	04～03月	<p>・自己点検の実施 評価委員会実施</p> <p>本事業が当初目的の達成に向け、順調に進歩しているかを含め内部による点検を実施するとともに外部による評価を実施する。</p>

Ⅱ. 学修質保証システム基盤整備

ライティングピアチューター制度の運用と、学修相談支援に関連する図書館員等の研修・フォローアップの実施

H28年度に引き続き、17名の学生に対しチューターのスキルアップのための実践的なライティングサポート研修を4月後半から実施し、5月後半から体制を整え週5日、1日2コマで運用を開始した。また10月にチューターを中心とした活動のリフレクション・研修会を実施した。この際、前期の報告書から問題を抽出し対策案を考えるなど、学生が自主的に活動して後期運用をスムーズにできるようすすめた。後期は前年度と同様11月から開始し、活動期間は翌年1月まで行った。2月には後期の活動のリフレクション・研修会を実施した。同日に現チューターを主体にした新規チューターの研修を実施し、新旧合同研修・顔合わせ・引継ぎなども行い、課題抽出や解決案の検討、後輩の研修など学生による自律的な運用のサイクルをつくる取組をすすめられた。

また、今年度から1年次の心理コース必修科目において、チューターが主導のレポート支援講座を実施した。後期には、本学と高大連携授業を実施している太田市立高校にチューターが赴き高校生にレポート支援を行った。

授業連携等をしたことで全5コースのうち3コースが1年次の基礎演習で利用し、利用者数は前後期合わせて174名であった。



ラビタデスク レポート支援講座（心理人間文化コース）



ピアチューター
リフレクション研修（グループワーク）



学生による研修風景



相談受付風景

高大接続改革推進事業の趣旨や本事業に係る内容の印刷物等の作成・配布、その他の広報活動

学修支援機能であるラピタデスク (Library Peer tutor Desk)活用促進パンフレット (2000部)、HP改修、本学のALの取り組みと特徴的なゼミを紹介した動画、図書館パンフレット (1000部)、AP事業広報用ポスター (24部) を作成した。

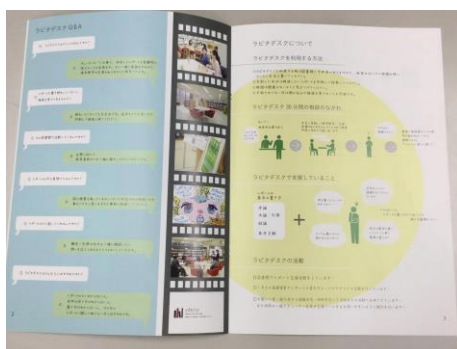
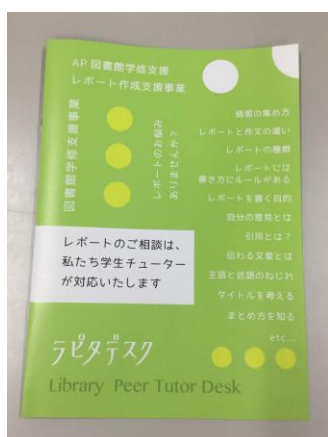
学修支援を行っているラピタデスクの利用促進のために作成にしたパンフレットは取組の説明や具体的な相談方法などを明記し配布することで全学生・入学予定者への周知を広めた。同時にオープンキャンパス・高校訪問等でも配布し、ピアチューター制度の周知をはかった。

また、図書館利用促進およびラピタデスクの広報として図書館、コモンズ等学生の集まる場所にそのパンフレットを設置して、学生だけでなく来学者へ配布したり、視察対応時や視察訪問時に本学資料とともに封入したりして活用した。

動画は3本作成し、ALの周知を進めるため新入生・高校生・高校教員向けに本学のALの取り組みを紹介し、ALがカリキュラムに位置づけられることの重要性を解説した。また、ALを効果的に活用している特徴的なゼミのインタビューなど載せ、本学HPおよびYOUTUBEで配信した。

および、AP独自のHPを改修し、事業についてよりわかりやすい内容に変更した。

なお、図書館パンフレットは入学予定者、高校訪問に配布され、AP事業広報用ポスターは、3月に実施したグローバル人材フォーラムで掲示し来学者への広報として利用した。



ラピタデスク
パンフレット (中綴じ)



APポスター

Ⅲ. 学修質保証システムの構築

Ⅲ-1 学修の達成目標の明示

学生の学修状況把握のための外部評価の実施

学生の汎用的能力等の状況を把握するために外部評価としてPROG/JUESを実施した。PROGは1年生（10月）と3年生（6月）、JUESは12-1月にかけて1年生と4年生を対象に実施した（PROG受験者：1年生/265名、3年生/114名 JUES回答者：1年生/128名、2年生/120名、3年生/104名、4年生/104名）。

PROGを実施したことで、学生は自分のジェネリックスキルについて知ることができ、自己分析につながった。外部評価から得られた調査データは授業改善のための根拠として蓄積され今後の授業やカリキュラム改善に反映されることで学生に還元される。

大学としては、これらのデータを蓄積することで、カリキュラムの効果検証と改善のためのデータを得ることができた。

学修成果指標の妥当性、適切性の検討に向けた調査・研究の推進

前年度に引き続き4月にKCGを利用したリフレクションを実施し、2年生以上の全学年がエビデンスに基づく自己評価を行った。

また、シラバス上で授業と「共愛12の力」との対応を明記し、各授業の最終回にAP授業アンケートをつかって「共愛12の力」の向上感を調べシラバスの妥当性について調査した

Ⅲ-2 アクティブ・ラーニングの質保証

アクティブ・ラーニング質保証に関する指標等の開発

前年度に引き続き前後期の授業最終週に全授業の受講者を対象として授業アンケートを実施した。この調査によって明らかになった各授業の授業外学修時間や、学生が授業を通して実感した12の力について、前年度分をまとめた2年分の分析データをFD研修で説明し、情報共有を行った。

また、JUESの結果から他大学と比べてディスカッションやグループワークについて昨年度に引き続き高い評価の回答を得た。アクティブ・ラーニングの効果測定の分析調査結果から、本学のアクティブラーニングが学生にとって効果的であることが引き続き確認できた。

アクティブ・ラーニングに関するスキルアップFDの開催

教職員の知見を深めるため、以下のようなフォーラム、FDを実施した。

【APフォーラム実施概要】参加者 105人

平成29年度 APフォーラム「高大接続を考える2017」

日時：2017年9月1日(金) 15:00-17:00

内容：大学入試改革についての基調講演と高校生100人委員会の発表、高校・大学での学びの接続についてのパネルセッションを展開した。(参加者105人)

【FD実施概要】参加者 25人

「AP授業アンケートについて一概要と結果のフィードバック」

日時：2018年2月21日(水) 13:00-15:00

内容：外部評価や授業アンケートから得たデータの分析結果を共有し、課題について検討した。



APフォーラム風景

Ⅲ-3 学修成果の可視化による主体的学修の支援の充実 学修行動調査の実施

授業アンケート・学修行動調査・卒業生調査の内容を検討し実施した。それにより現段階の学修の到達度のデータが収集できた。7月と1月にAP授業アンケートを実施、またJUESは11-12月の2か月間に全学年を対象に実施した。(JUES回答者：1年生/128名、2年生/120名、3年生/104名、4年生/104名)

JUESの結果から他大学より、話す・書く・問題解決の力がついたと感じる学生が多く、AL授業の有効性がわかった。集積データから次年度以降学生に提供する学修支援の傾向を検討することが可能となる。また、今後の継続的な調査によってデータを集積することで学修成果指標の開発と教育改善のための有効な資料となる。

KCG (Kyoai Career Gate : ポートフォリオ) を活用した学修成果の蓄積とリフレクション

KCG は前年度に引き続き全学生を対象として運用を実施した。リフレクションは、「共愛12の力」(学修成果指標)の説明が必要であることと、後期の成績発表後が望ましいため、全学生を対象として4月のオリエンテーション期間に実施した。5月には担当教員とのリフレクション面談を実施し、特に2年生を対象とした面談については教員に対して実施報告書の提出を求めた。新入生にはオリエンテーション期間中にログインと利用方法の説明、目標設定をする時間を設けた。他学年も前年度を振り返り、自己評価と目標の設定を行う時間を設けた。記入した内容は担当教員がチェックするようすすめると同時に、管理スタッフが全学年を確認し結果は教授会で定期的に共有された。

引き続きポートフォリオが稼働をすることで、年度初めに設けられたリフレクション時間で学生は教員から再度説明を受け1年間の振り返りと目標を入力した。徐々に蓄積の習慣を進めることでより密度の高いポートフォリオをつくることができている。この取組により、学生にとっては学びの可視化ができるようになっている。

ポートフォリオへのアクセスはリフレクション時期に集中しており、それ以外の時期によるアクセスはまだ多くないことは課題ではあるが、AP事業推進担当教員が授業課題と連携してポートフォリオを利用するなどの工夫により昨年度よりアクセスを伸ばしている例もある。今年度からリフレクション面談を実施したことによって、学生に対して適切なフィードバックを行うことができた。また、教員はリフレクション面談を通して、学生の成長を具体的に理解すると同時にKCG活用のメリットについても理解を深めることができた。

合計 / ログイン	学年	1	2	3	4	総計
英語		289	249	97	59	694
国際		316	170	123	49	658
児童教育		251	193	48	62	554
情報・経営		291	137	115	71	614
心理・人間文化		131	117	93	62	403
総計		1278	866	476	303	2923

ログイン数

コース別のアクセス (ユニーク)	月別											
学年	2017/04	2017/05	2017/06	2017/07	2017/08	2017/09	2017/10	2017/11	2017/12	2018/1	2018/2	2018/3
英語	229	49	57	49	24	12	56	73	45	52	42	6
国際	135	82	22	85	91	21	21	59	19	69	42	12
情報・経営	161	75	45	29	18	19	29	54	75	73	25	11
心理・人間文化	125	66	20	34	26	9	13	49	12	18	17	9
児童教育	140	38	57	52	64	24	21	43	29	40	60	7

月別アクセス数

Ⅲ-4 学修成果達成度による教育改善

他大学への視察、各種セミナーへの参加

7月にお茶の水大学のFD/SD研修に参加した。10月には日本教育心理学会でALの質保証に関するポスター発表を行った。11月は図書館総合展で、学修支援の講座を聴講した。2月に関西大学にAPの合同フォーラムに参加した。またレファレンス共同ベースのセミナーとライティング支援のシンポジウムに参加し図書館での支援について学んだ。加えて同じく2月に北陸大学へ高大接続についてのヒアリングと視察を行った。さらに統計セミナーに参加し統計解析の多様な活用方法について学び、調査をより円滑に行うスキルを得た。←H28

以下のフォーラム・セミナー等に参加した。

- ・6/23 「第7回高等教育機関向け教育セミナー」(於：駒澤大学)
- ・9/22 「図書館総合展フォーラム2017in安城」(於：安城市図書情報館)
- ・9/24 「大学入試改革シンポジウム2017」(於：一橋大学)
- ・11/10 「AP事業中間報告会」(於：八戸工業大学)
- ・2/16 「高等教育に求められる質保証」(於：品川)
- ・2/20 「全APテーマ合同報告会」(於：京都光華女子大学)
- ・2/20 「第5回グローバル人材フォーラム」
(於：京都産業大学むずびわざ館)
- ・2/25 「合同APフォーラム-第3期認証評価に向けて：
学生の成長に寄与する内部質保証システムの構築-」
(於：大阪府立大学・大阪市立大学・関西大学、)
- ・3/10 「高等教育に求められる質保証を考える」共創ワークショップ、
(於：ベネッセ教育総合研究所)

自己点検の実施

内部自己点検評価委員会へAPの取組の報告を行った。外部評価委員会にむけて検討課題を含め情報整理を行った。

5月に外部評価委員会を実施した。評価委員3名を招聘し、本学のH28年度APの活動について報告し、それに対する意見と評価を受けた。いただいた指摘として、1：PROGの結果上位層の伸びが少ない、2：高大接続の推進、3：ポートフォリオの利用普及等があった。